



「地域資源」×「先端技術」×「伝統工芸」で世界に発信

有限会社 岩切美巧堂
専務取締役 岩切 洋一

当社は、大正5年(1916年)に当社始祖の岩切登一郎が霧島市国分で焼酎工場の蒸留冷却用錫管を手がけたことから始まり、現在は鹿児島県指定伝統的工芸品薩摩錫器として錫器製造を行っております。薩摩錫器は、300年以上の歴史を持つ薩摩藩ゆかりの錫細工です。1933年の日本を代表する工芸品としてシカゴ、パリなどの万博で工芸品の中で唯一、賞に輝いたことから始まり、全国伝統工芸入賞・万博出展・天皇陛下献上品という名誉を積み重ねるなど多くの賞を獲得してきた実績もあり、全国から多くの発注を頂いています。

おかげさまで、2019年以降の「霧島市ガストロノミー7ツ星」連続受賞、2020年「現代の名工」を受賞するなど地道に伝統工芸技術を紡いできたことが認められてきているところです。

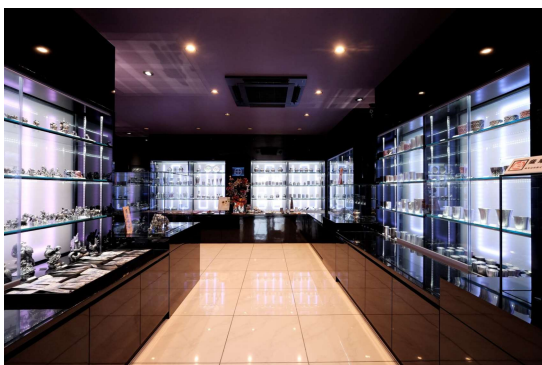
現在、薩摩錫器の技術を現代まで伝承し続けながらも新しい技術を取り入れて革新を目指し、精密な錫挽きによる繊細な合わせ技術が生かされた「二重構造錫製焼酎専用タンブラー」や「錫器の伝統に新たな風を吹かせる」ことをコンセプトに黒、赤、緑、青の4種類の漆を使用した現代錫器「SATSUMA茶筒」など新商品の開発に取り組むなど伝統工芸品が日常生活に溶け込んでいくように努力しています。

今回、鹿児島を世界に発信することに貢献できる新商品開発を模索していたところ、鹿児島県工

業技術センターの特許技術で「桜島溶岩コーティング技術」を知りました。本技術は、プラズマを使って桜島溶岩を1 μ m以下の薄いコーティング膜にするものです。薩摩錫器に桜島溶岩をコーティングすることでこれまでにない新色を作り出す取組に挑戦しました。錫器の模様との相性やコーティング膜の厚さなど同センターの協力のもと、何度も試作を繰り返し、見る角度や光の加減により虹色のような色合いを醸し出し様々な色の変化を楽しむことのできる世界初の製品化に成功しました。この虹色は構造色によるもので、ガラスや木材では出すことができず、錫器ならではの特徴と言えます。

このように、納得のいく製品になるまで多くの時間と労力を要したものの、多くの方の協力のもと鹿児島から世界に発信する製品に仕上がったと考えています。

日本でも数少ない活火山を都市部に持つ鹿児島県ならではの商品であり、「桜島・錦江湾ジオパーク」を象徴する製品として「薩摩錫桜島タンブラー『彩光(さいこう)』」と名付けました。10月31日に行われた「2022かごしまの新特産品コンクール」に出品し、最高賞である鹿児島県知事賞を受賞いたしました。桜島からSAIKOUな贈り物を全国及び世界に発信し、観光資源のひとつとして鹿児島の発展に寄与していきたいと考えています。



岩切美巧堂の薩摩錫器工芸館



薩摩錫桜島タンブラー彩光(さいこう)